

令和4年度(2022年度)陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について

2022年5月17日～19日、6月2日～4日の2回、それぞれ陸奥湾の8調査点で試験船青鵬丸(65トン)のオッタートロール海底曳によるマダラ稚魚の分布調査を行いましたので、結果をお知らせします。

マダラ稚魚の採捕尾数は、5月は6,789尾、6月は4,162尾と、5月に多く採捕されました。

図1に5月の地点別の分布密度を示しました。最も高かった地点はSt.1で97尾/1,000m<sup>2</sup>でした。この他、前年に続いて全調査地点で分布が確認され、これまで5月の採捕が少ないSt.3においてもまとまった分布が確認されました。また、地点別標準体長別の採捕尾数を表1に示しました。標準体長のピークはSt.1、2、4及び8の40mmが最大でした。

図2に分布密度の平均値と最高値の経年変化を示しました。2022年5月の平均分布密度及び分布密度の最高値は6年間で4番目に高い値となっており、近年の中では中間的な豊度であった可能性があります。

2021年漁期(4月～翌年3月)の陸奥湾(竜飛～奥戸)のマダラ漁獲量は、1981年漁期以降で最多となる1,983トンでした。2016年漁期以降、1,000トンを超える漁獲が継続していますが、その間、稚魚豊度は大きく変動しています。

来年以降も調査を継続し、稚魚密度と資源量との関係を明らかにし、漁況予測出来るよう取り組んでいきます。

(資源管理部 松谷紀明)

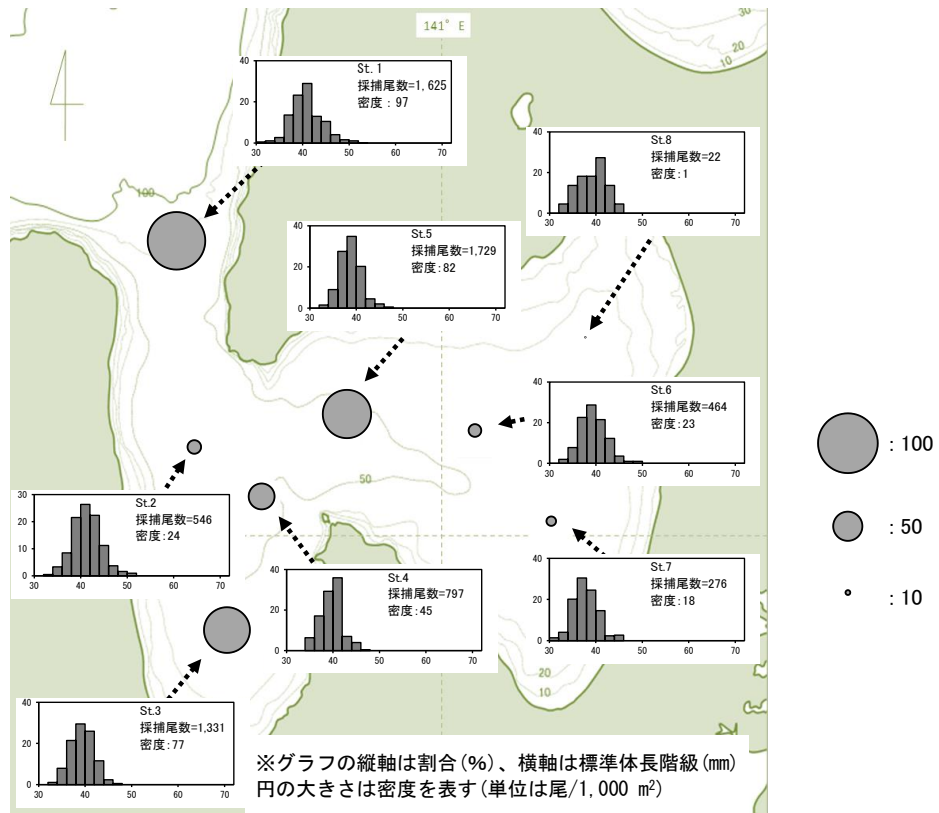


図1 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と標準体長組成結果(2022年5月)

(試験船青鵬丸によるオッタートロール)

表1 地点別標準体長別採捕尾数(マダラ)

モード: □

単位: 尾

標準体長 (mm)	St. 1 N=1, 625	St. 2 N=546	St. 3 N=1, 331	St. 4 N=797	St. 5 N=1, 729	St. 6 N=464	St. 7 N=276	St. 8 N=22
20 ≦ - < 22								
22 ≦ - < 24								
24 ≦ - < 26								
26 ≦ - < 28								
28 ≦ - < 30								
30 ≦ - < 32	8						4	
32 ≦ - < 34	16	3	13		26	9	11	1
34 ≦ - < 36	42	18	104	50	155	36	56	3
36 ≦ - < 38	221	46	286	136	477	105	84	4
38 ≦ - < 40	379	117	392	233	602	133	68	4
40 ≦ - < 42	470	144	346	286	350	100	40	6
42 ≦ - < 44	210	122	153	56	77	57	6	3
44 ≦ - < 46	171	61	30	32	34	16	7	1
46 ≦ - < 48	65	20	7	4	9	4		
48 ≦ - < 50	25	9				4		
50 ≦ - < 52	17	5						
52 ≦ - < 54	1							
54 ≦ - < 56								
56 ≦ - < 58								
58 ≦ - < 60								
60 ≦ - < 62								
62 ≦ - < 64								
64 ≦ - < 66								
66 ≦ - < 68								
68 ≦ - < 70								
70 ≦ - < 72								
72 ≦ - < 74								
74 ≦ - < 76								
計	1, 625	546	1, 331	797	1, 729	464	276	22

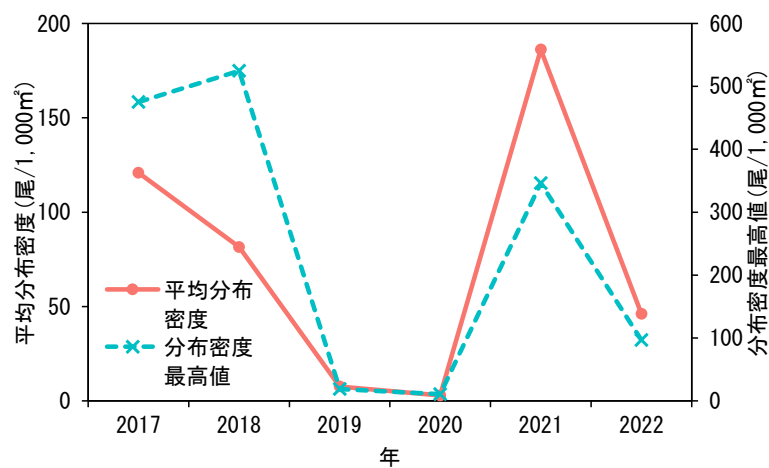


図2 5月の陸奥湾マダラ稚魚分布密度の経年変化(2017年-2022年)